

## 第14回 火災防護検討会 議事録

1. 日時 平成20年8月22日(金) 13:30~15:30

2. 場所 (社)日本電気協会 4階 B会議室

3. 出席者(敬称略,五十音順)

出席委員:奈良間主査(中部電力),遠藤(東北電力),大江(四国電力),岡(九州電力),角谷(三菱重工業),岸良(中国電力),多田(原子力安全基盤機構),田中(日本原子力技術協会),長橋(日本原電),名畑(北海道電力),菱川(東京電力) (11名)

代理委員:牛島(関西電力・吉永副主査代理),加賀谷(日立 GE ニュークリア・エナジー・熊坂代理),曾根(電源開発・田口代理) (3名)

常時参加者:宇佐美(中部電力),谷川(日本原電),森田(東芝プラントシステム) (3名)

オブザーバ:塩崎(三菱重工) (1名)

事務局:田村

4. 配布資料

資料No.14-1 第13回 火災防護検討会議事録(案)

資料No.14-2 原子力発電所の火災防護指針 JEAG4607-1999 改定の内容

資料No.14-3 <JEAG4607-1999改定案>と<火災防護審査指針・別記2・大橋WG報告書・実用炉規則>

資料No.14-4 火災防護の見直しにかかる各種活動の連携について

資料No.14-5 予防行政のあり方について(中間報告)・・・予防行政のあり方に関する検討会平成19年12月

参考資料-1 原子力規格委員会 安全設計分科会 火災防護検討会 委員名簿(案)

5. 議事

(1) 出席者の報告及び委員変更について

事務局より,代理委員及びオブザーバの報告があり,承認された。

(2) 前回議事録確認

事務局より,資料No.14-1に基づき,第13回 火災防護検討会 議事録(案)の説明があり,一部修正の上,承認された。

(3) JEAG4607-1999 原子力発電所の火災防護指針の改定素案について

奈良間主査より,資料No.14-2,14-3,14-4の説明があった。本資料は,8月26日の安全設計分科会において中間報告するものであり,以下の補足説明があった。

- ・分科会では,中越沖地震の反映を中心に説明する予定。
- ・別記-2の要求事項,大橋WGの推奨事項,火災防護に関する審査指針の要求事項を取り入れることとし,具体的な落とし込みは11月まで継続して検討する。
- ・複数同時火災についての考え方は次のとおりであり,今後の検討で一定の方向性を示すこととしたい。
  - 指針では「火災防護に関する計画の策定に当たっては,・・・複数の箇所で同時に火災が発生する可能性があることに留意」とあり,運用面対応となっている。
  - 大橋WGでは複数同時火災への要求はない
  - 別記-2では,「対策を適切に組み合わせ」とあり,設計面と運用面で考える必要がある。

- ・今はJEAG（ガイド）であるが、コード化の要求からJEACとしていく。マストの要求を記載することとなるため、記載内容は今後検討していく。
- ・専用回線について、2月に指針策定の幹事・JNESと打合せを実施し、緊対所設計指針に落とし込むことを確認した。
- ・既設と新設の要求事項の区分けを明確化する必要があるが、指針でどこまで扱うか議論したい。

説明に対する主な意見は次のとおり。

- ・4頁の火災影響の低減について、見直す必要はないか。大規模地震に対して従属火災を想定すべき。
- ・原子力学会で火災PSAの手法を確立するという話、中操被ばくや内部いっ水に関する影響評価の話があり、いずれ火災防護に関しても影響評価の話が出てくる可能性がある。そのため、指針に反映すべきと考える。  
現時点では、評価方法がないため、入れるのは困難
- ・いっ水でも同じような議論があり、地震で複数の配管破断を想定した場合、単一での完全破断を評価しその他の破断を包括する手法をとった。地震でどういう火災を想定すべきか検討すべきではないか。  
影響評価について、国と折衝した場合に根拠の提示を求められるが、根拠を示すことが難しい。地震に関しては、設計上B・Cクラスの設備は影響があるといわざるを得ないが、実際、柏崎の例でも火災が発生したのは変圧器のみであり、想定をどうするかは様々な考え方がある。
- ・技術評価の段階で議論されるべきと考える。
- ・個人の裁量に任せるよりも、指針で想定すべき火災を示すべき。
- ・原子力学会で来年からPSAの検討を始めると聞いているが、それは使えないか。  
PSAは規制の対象外。確率論よりも先に決定論的な評価があってしかるべきではないか。  
PSAでもモデルは作るはずであり、そのモデルを活用できないか。
- ・火災影響評価はどこかでやらなければいけない問題。  
実例から火災の想定を決めるとすると、発電所では溶接作業くらいしかない。また地震でも大きな被害はなかった。全て仮定の話で構築すると、共通要因が多いことから想定が難しい。今はとにかく柏崎の事例を反映することにしてはどうか。
- ・どういう風に進めていくか、から議論する必要があると考える。火災防護を検討する受け皿がない。
- ・電気協会が知見を集めて整理し指針にする場であるため、電事連が検討の場ではないか。ロードマップにして数年後に結果が出た後、それを次の改定に反映するのが近道だと思う。
- ・指針にどこまで反映したか、入れないのかの見解を示すこととしたい。
- ・今後の予定では、次々回の安全設計分科会（11月予定）で、指針案の提示、審議を考えている。各社に分担して作業をお願いする場合もあるため、協力をお願いしたい。
- ・まずはガイドを作り、コードにする時には、ガイドのどこの部分を本文又は解説にするかの切り分けを実施することとしたい。

## 6. その他

- (1) 次回の検討会は、別途調整することとした。

以上